

学びの広場

2020
11月号

問 教育課 学校教育係 ☎(83)7023
生涯学習係 ☎(83)7021

「新型コロナウイルス感染拡大」に伴う人権課題

今月号では、人権の視点から、新型コロナウイルス感染症について考えてみます。

国内で、新型コロナウイルス感染者やその家族、医療従事者などに対する偏見や差別、誹謗中傷などの事案が発生しています。

感染者やその家族に対しては、SNSなどで事実と異なるデマが大量に流され、勤め先には知らない人から「ここから出ていけ」などと嫌がらせ電話をされたり、会社に入る

ところを写真に撮られたりするなど差別的な扱いを受けた事案がありました。

また、医療従事者やその家族に対しては、タクシーへの乗車拒否や子どもの保育園への通園拒否、家族が介護施設の利用を控えるよう言われたという事案もありました。

さらに、外国籍県民に対しては特定の国の方がいわれない誹謗中傷を受けたり、休業要請を受けた企業や飲食店などの経営悪化によって外国人労働者が不当に解雇された

りすることなどもありました。

◆正しい情報の入手と発信を心がける

インターネット上には不正確な情報が氾濫しています。そのような情報や噂話を信じて身のまわりの人に言いふらしたり、SNSで発信したり拡散したりする等の行為は、プライバシーの侵害、誹謗・中傷等、人権を侵害することにつながりかねません。

◆人権意識を高め、人権感覚を磨く

厚生労働省や文部科学省等の関係省庁、県、教育委員会等からの発信に基づいた正確な情報を入手するよう努め、正しい知識を得る努力をしましょう。さらに、自分もまた情報の発信者であることを意識して、不正確な情報を広めないようにしていきましょう。

◆これまでの事例から学ぶ

これまで、ハンセン病患者や回復者、HIV感染者やエイズ患者への偏見や差別、さらには福島第一原子力発電所事故により避難した児童生徒へのいじめなど、正しい知識や理解の不足、根拠のない思い込み等により、人々の人権が侵害される事が繰り返されてきました。

新型コロナウイルス感染症の問題が大きくなっているこのような時期だからこそ、これまでの事例を振り返りつつ、改めて他人の人権を擁護するための行動について考えていくことが必要です。

厚生労働省や文部科学省等の関係省庁、県、教育委員会等からの発信に基づいた正確な情報を入手するよう努め、正しい知識を得る努力をしましょう。さらに、自分もまた情報の発信者であることを意識して、不正確な情報を広めないようにしていきましょう。

また、心ない言動に傷付けられている人の痛みや気持ちを想像したり共感的に受容したりすることができるような人権意識を高めるとともに、率先してより良い行動をとるようにしていきましょう。

一方、居住地以外のナンバーの車両に対して、傷を付けるなどの破損行為やあおり運転、他県ナンバーの車を写真撮影し、SNS上で公開するなどの事案もありました。

一方、心温まる話題もありました。



また、家庭では学校の臨時休業や外出自粛、保護者の減収などに伴って、子どもや家庭の生活環境が変化する中で虐待や問題行動・不登校のリスクの高まりが危惧されています。

そこで、学校では学校再開後、引き続き、児童・生徒のサインを見逃さず虐待の早期発見・早期対応に努めるとともに、全ての児童・生徒に対し、相手の気持ちを考え、心無い言葉や態度、振る舞いをしないよう、継続した指導を行っていきます。

声かけをする人たち。

こうした思いやりのある言動が周りを勇気づけたり、豊かな人間関係をつくったりすることに繋がります。ちょっとした一言に心を研ぎ澄まし、自分は何ができるかと考えることが日頃の人権感覚を磨き、人権意識を高めます。

松田 文化財探訪

続・町指定文化財とその周辺 その15

文化財保護委員 鈴木 一行

中尾農道に沿って(二) 桜観音①(佐々木文山)

「松田山入口」という富士急バス停が庶子の国道246号線沿いにあります。その東側の松田山登山道が最明寺(西明寺)跡へと続く中尾農道です。そして、バス停西脇の急な右段を登ると桜観音の御堂(観音堂)の前に出ます。この寺の正式名称を「長谷山観音寺」といいます。

あるのがうつすらと見え、その下に刻印も確認できます。佐文山とは江戸時代中期の書家、佐々木文山の事です。この文山の手による扁額は延命寺の観音堂にもあります。この二つの事に気付いたのは私共の大先輩、井上清さんでした(『広報松田』昭和45年11月号、46年1月号)。

寺が「桜観音」と呼ばれるようになった理由を、隣接する宝寿院(真言宗)の藤井宏映住職は「昭和初年、庶子の青年会が根石までの道路の両側に桜を植えた事に由来するのでは」と語り続けてきました。そして、1964年に国道が拡幅されるまでは道路のセンターライン辺りまでが境内であった事、1889年に東海道線(現、御殿場線)が開通するまでは線路の南側まで参道が続いていた事などを教えていただきました。

江戸の西窪に住みました。「寺社の額字を書し、土庶に門弟多く、酔えば一層の妙趣を示した」と評された人物です。江戸後期の戯作者、山東京伝の随筆『近世奇跡考』に次のような逸話が紹介されています。

さて、御堂の正面には「観音堂」と大書された扁額がかかっています。左端をよく見ると「佐文山」と

店の主人から春山桜花を描いた屏風に揮毫を依頼されます。すると酔った文山は「此所小便無用」と書いてしまったのです。その時、主人の困った顔を見た友人の俳人宝井基角が「花の山」と続け、その場を収めました。

山書」と



佐々木文山の額字



踏切越しの「桜観音堂」

以後、「此所小便無用佐文山」ともてはやされたとか……
文山と桜観音を結び付けたもの、何なんでしょうね。

《挑戦! まつだマイスター検定》

- ① 吾妻鏡 ② 方丈記 ③ 愚管抄 ④ 玉葉

地名としてのまつだが初めて出てくるのは、治承4年(1180年)10月とされていますが、その出典は何でしょうか。(答えは6面)